

単収 200kg/10a 以上、大粒比率向上に向けて

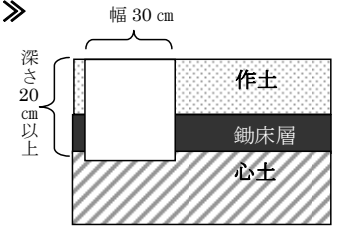
「排水対策」「土づくり」「適正播種」で目標苗立数と初期生育を確保！！

1 排水対策

- ① 用水路や水口からの漏水を防止しましょう。
- ② 額縁排水溝は、幅 30cm、深さ 20cm 以上を目安に設置しましょう。
- ③ 基幹排水溝と排水口を確実に連結し、雨後に溜まり水のある場合は、溝の手直しを行いましょ。

《営農排水技術メニュー》

- | |
|--------------------|
| ① 侵入水排除
(畦畔補強等) |
| ② 明渠 (額縁排水溝) |
| ③ 排水口の掘り下げ |
| ④ 畝立て栽培 |



《額縁排水溝イメージ図》

2 土づくり

- ① 地力向上のため、堆肥等の有機物を積極的に施用しましょう。
- ② 耕起前に必ず石灰質資材を 100~200kg/10a 施用し、土壌 pH 6.0 ~ 6.5 を確保しましょう。

《堆肥の施用量目安》

種類	10a 当たり施用量
牛ふん堆肥	1 ~ 2 t
発酵鶏糞	100 ~ 200 kg

3 病虫害防除

○種子伝染性病害やフタスジヒメハムシ等の加害を防ぐため、必ず種子塗沫処理を行ってください。

薬剤名	処理法	対象病虫害等
クルーザーMAXX	種子 1 kg 当たり 8 ml 塗沫	紫斑病、苗立枯病、茎疫病、黒根腐病、タネバエ、ネキリムシ類、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ、ハト (忌避)
キヒゲン R-2 フロアブル (病虫害発生が少ない場合)	種子 1 kg 当たり 10 ml 塗沫	紫斑病、苗立枯病、タネバエ、ハト (忌避)

4 播種作業

- ① 土壌が乾いた条件で、耕起、砕土・整地、播種、作溝の一連の作業は一日で行い、砕土率 60% 以上を確保しましょう (右写真参照)。
- ② 目標栽植本数を確保できるよう播種機の準備を事前に行いましょう。
- ③ 作業速度はゆっくり歩く程度の速さ (0.5m/秒) で行い、播種深度は 3 cm を目安としましょう。
- ④ 除草剤散布は、播種・覆土直後、土が乾かないうちに行いましょう。

- 出芽・苗立ちが安定し、揃いも良くなる！
- 除草剤の効果も安定！！



《砕土率 60% 以上の土壌》

《播種時期別の大豆播種量 (1 株 2 粒播き・条間 80cm)》

品種	播種時期	播種粒数 (粒/m)	栽植本数 (本/10a)	播種量 (kg/10a)
エンレイ	~ 6 月上旬	12~14	14,000~16,000	5.3~6.1
	6 月中旬	14~17	16,000~18,000	6.1~6.8
オオツル	6 月上旬	9~11	10,000~12,000	4.4~5.3
	6 月中旬	11~12	12,000~14,000	5.3~6.2
シュウレイ	~ 6 月上旬	11~13	12,000~15,000	4.7~5.9
	6 月中旬	13~17	15,000~18,000	5.9~7.0

※本年の大粒種子は百粒重が概ね前年並みのため、前年と同程度準備しましょう。

《基肥量の目安》

肥料名 (N:P:K)	土壌条件	施用量 (kg/10a)	
		単作	麦跡
BB084 (10:18:24)	砂壤~壤土	30~40	50~60
	埴壤土	20~30	40~50

※麦跡の N 量は、それぞれ 2kg 多くする

《除草剤》 (下表のいずれか)

除草剤名	散布量 (/10a)
トリアリサイド 粒剤 2.5	4 ~ 6 kg
ラカー 粒剤	4 ~ 6 kg